

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田壽夫(文、写真)、倉谷邦雄(写真)、山 國(写真)

日 時：2018(平成 30)年 5 月 3 日(木) 9:30~16:00

気 象：天候=晴 (12 時の気温：14℃)

活動エリア：45 林班ろ(モニタリング調査区とその周辺)

活動内容：林床整備(切り放し残置木の処理=玉切りと棚積み)

枯損木・過密な常緑広葉樹の除伐、枝打ち

自然歩道の巡視と水切り修復

参加者：石原順子、斧田一陽、倉谷邦雄、黒山泰弘、杉本佳英、武田壽夫、宮本 廣、山 國

(計 8 名)

<憲法記念日 今日もセッセと森林づくり>

今年の 5 月第一木曜日はたまたま「憲法記念日」の祝日、夜半の強雨は明けてスッキリ五月晴れで、JR 高槻駅前には 8 人が顔を揃える。ゴールデンウィーク後半初日のせいか、人気の巻き寿司屋「ろまん」は開店早々から大量注文殺到で、あてにしていた斧田、黒山両氏は買いそびれ、やむなくコンビニ弁当に乗換え。ただ、ポンポン山へのハイカーはあまり多くはなく、少々拍子抜け。

今日の活動は二組に別れ、一組は自然歩道の巡視と水切り修復、何度かの強風雨で荒れが予想されるし、ナラ枯れ対策の現状も気になる。二人が鋤を担いで旧道を登って行く。残りの 6 人は「45 林班ろ」のモニタリング調査区とその周辺の林床整備、こちらへは本山寺の本堂を通過して自然歩道を約 300m で里道に分け、山腹をグルと廻って尾根に登って行く。調査区の整備は三年がかりで今年は二年目、周辺を含め、成果の「見える化」を目指し着実に進めなければならない。

<巡視組にはハイカーの感謝の声、調査区組は倒木処理に難渋>

自然歩道の「水切り」はどこも土と落ち葉で埋没状態、山頂の天狗杉まで間を先が三ツ股の備中鋤と平鋤で 12~13ヶ所を掘り返し。併せて、登山道にかぶさりそうな倒木 2 本を処理。なお、ナラ枯れは新たなものは無かったが、対策済みのうちアカガシなど 2 本が枯死の様様。

調査区は「密生状態」ではないが、枯損木・倒木が目につく場所。尾根上はともかく、周辺の足下は例によって谷に落ちていくので、足場の確保は勿論、処理木の滑落も要注意である。除伐中に思いがけないタイミングで滑り落ちていくことがある。下方に気を使い、声を掛けあいながらの作業である。アレコレ神経を使いながら、林床は 20m×70m(0.15ha)、枯損木や広葉樹は 20 本は除伐出来た。特に、大径の松の枯損木(写真⑩)や、長尺で折れきっていない倒木(写真⑦⑧)の処理には手を焼いた。ともあれ、今日も無事が何より。

<山の花々ーミツバツツジ、本山寺のサマサ>

里では盛りを過ぎているがミツバツツジを発見、里道脇では花遊ぶに蝗の子と今日も「森は生きている(=ロシア童話のタイトルを借用)」。なお、参拝者駐車場では沢山のサクランボが落ちていた。

(本文 以上)

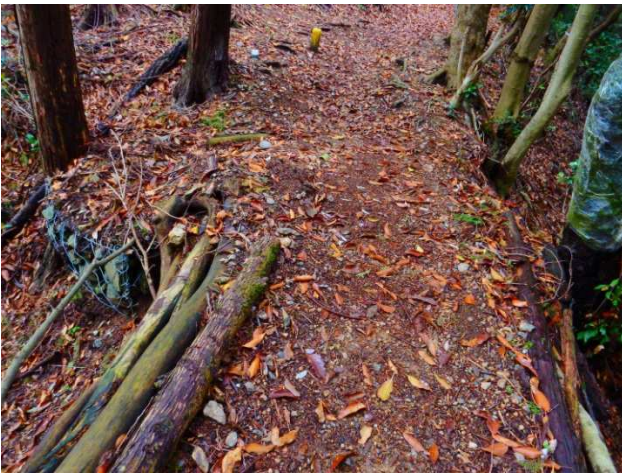
【①作業始メの集合】



【②埋った「水切り」の掘り返し】



【③埋もれて見えない「水切り」】



【④掘り返し終了】



【⑤調査区周辺=切り株は枯損木の処理跡】



【⑥枝 落下の瞬間を捉えた珍しい一枚】



【⑦難物の一つ-この冬に折れたものか】



【⑧上を切ると折れて滑り落ちて行った】



【⑨正面の松の邪魔だったアセビを間伐】



【⑩手古摺る松の枯木の伐倒】



【①ミツバツツジ】



【②花に遊ぶ蝗の子】

